

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成28年7月21日(2016.7.21)

【公開番号】特開2014-38597(P2014-38597A)

【公開日】平成26年2月27日(2014.2.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-011

【出願番号】特願2013-123295(P2013-123295)

【国際特許分類】

G 06 T 1/00 (2006.01)

【F I】

G 06 T 1/00 330 B

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月6日(2016.6.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ハイパースペクトルデータを処理する際に使用するためのアルゴリズムを選択する方法であって、

スペクトル情報発散(SID)、スペクトル角マッピング(SAM)、ゼロ平均差分面積(ZMDA)、マハラノビス距離、およびバタチャリヤ距離の少なくとも1つを含むハイパースペクトルデータの決まった特性を処理するための特質を各々が有する、アルゴリズムの組を用意するステップと、

前記ハイパースペクトルデータのフレーム特性にアクセスするステップと、

前記ハイパースペクトルデータの少なくとも1つの特性を選択するステップと、

前記少なくとも1つの特性の基準サンプルから前記少なくとも1つの特性の変動に対する許容差を確定するステップと、

前記ハイパースペクトルデータ内の前記少なくとも1つの特性を前記許容差と比較するステップと、

前記少なくとも1つの特性が前記許容差を超えるならば、前記ハイパースペクトルデータを処理するために前記少なくとも1つの特性と最良に関連する、前記組から1つのアルゴリズムを選択するステップと、

を含む、方法。

【請求項2】

ハイパースペクトルデータの前記フレーム特性が、ハイパースペクトルデータの照度の変動性、ハイパースペクトルデータの類似するシグネチャを伴う画素の変動性を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

少なくとも2つの特性を選択するステップ、および前記少なくとも1つの特性が前記許容差を超えないならば、前記ハイパースペクトルデータを処理するために第2の特性と最良に関連する、前記組から1つのアルゴリズムを選択するステップを含む、請求項1に記載の方法。